海外交流事業

HABATAKE!黒陵

派遣報告書

（結団式：黒沢尻北高校大会議室）

第１回（中国　深圳（しんせん））

平成 29 年 3 月 12 日（日）～ 18 日（土）

目　次

ｐ１	校長挨拶
ｐ２	同窓会長挨拶
ｐ３	ＰＴＡ会長挨拶
ｐ４	行程表
ｐ５～１５	参加生徒報告書
ｐ１６～１８	引率教員報告書
ｐ１９	寄付者名簿
ｐ２０	決算書

（深圳職業技術学院で教授に質問）

（深圳テクノセンターで石井次郎さんの説明を受ける）

ご　挨　拶

校長　菊池　浩

この度、同窓会、PTA、地域企業の皆様の多大なるご支援を賜り、海外交流事業「HABATAKE!黒陵」において、10 名の生徒と 2 名の引率教員を海外に派遣させることができました。厚く御礼を申し上げます。

さて、本校では“ものづくりの聖地”北上地域の課題を高校生の柔軟な発想を活かし、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな視点から探求することを目的とした課題研究「きたかみ世界塾」を実施して参りました。この事業は、北上市と協働で実施し、地域の方々の支援を受ける形で進めております。高校・行政・地域が連携する先進事例として県内外から注目をいただいております。この活動と連動した形で、一昨年度は、北上市主催の北上市アジア経済視察事業（ﾍﾞﾄﾅﾑ、ﾐｬﾝﾏｰ）に本校生男女 2 名を参加させていただきました。この 2 名は、視察で得た知見を校内外で報告する機会をいただき、数多くお褒めの言葉をいただきました。このことで、本校独自で生徒を海外に派遣する事業を立ち上げようとする気運が高まりました。昨年春に、同窓会総会及び PTA 総会で趣旨を説明申し上げたところ、すぐさま賛同をいただき実施の運びとなり、同窓会総会を皮切りにたくさんのご支援をいただきました。

派遣費用は、すべて個人及び企業のご寄付で賄われており、快くご寄付くださいました皆様に心より感謝いたします。また、このような事業を実施するノウハウをもつ職員がいない中で、派遣場所の選定、現地での研修のアレンジ北上市のアドバイザーである関満博（せきみつひろ）先生（一橋大学名誉教授・明星大学経済学部教授）にご助力いただきましたし、事前研修は関先生のほか北上市商工部企業立地課長 石川明広 様にお願いをし、現地の情報を詳しく説明いただきました。また、深圳テクノセンターの皆様や徐 樹林様に現地での研修にご協力いただきました。誠にありがとうございました。

今回派遣した生徒は、アジア最高レベルの経済先進地で研修を積むことができました。他では得られない有意義な研修ができたと報告を受けております。この研修で彼らの意識も高まり、未来へのビジョンが明確になり、その貴重な体験が本人のみならず、学校、そして地域にも良い影響を及ぼすことを期待しております。

本校の教育方針にある「生徒のすぐれた素質と能力を十分に開発伸長させ、以て人類社会の発展に寄与する人材を育成」という理念を実現するために、「HABATAKE!黒陵」、問題解決型授業（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ）への転換、地域との協働による「きたかみ世界塾」を実践して参ります。さらに、これらを三本の柱として、文部科学省によるｽｰﾊﾟｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾊｲｽｸｰﾙ（SGH）の認定を目指しております。国の財政状況により、認定は困難な状況にあると認識しておりますが、目指すべき方向は、必ずや生徒及び地域の未来に有益であると確信いたします。同窓会、PTA をはじめとする関係者の方々のお力をいただき、黒沢尻北高等学校は一層の飛躍を目指して参ります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

HABATAKE!黒陵　報告書

同窓会長　伊　藤　　彬

多くの同窓生のご協力を戴いて創設された「HABATAKE!黒陵基金」を利用しての第一回目の HABATAKE!黒陵の海外交流事業は三月、１０名の黒陵生が参加し香港、深圳を訪問してグローバル人材育成事業のスタートを切ることが出来ました。

参加した皆さんは海外での生活や経済事情に直接触れることにより大きな示唆と刺激を受けたことと思います。また海外から見る日本を改めて認識したことでしょう。素晴らしい成果を得られたものと思います。

黒陵は数年前から国際的に活躍できるグローバル人材の育成をめざして文部科学省認定のスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）を目指して活動してきましたが北上市役所の若い職員の協力を得て開催している「きたかみ世界塾」などの授業は高く評価されているものの自主的な海外交流の少なさが課題となっていました。校長を始め学校として様々な場面を利用しての取り組みを強化するとともに自主的な取り組みを実施するため「HABATAKE!黒陵基金」の創設についてＰＴＡや同窓会との協議により平成２８年度から創設されました。

平成２７年度、校長より北上市や民間の会社が実施している海外研修に黒陵生を参加させてほしいとの依頼があり同窓会の支援を受けて北上市の東アジア経済視察（ベトナム・ミャンマー）に二名参加させていただきました。経済の専門的な視察でしたが二人とも同行した大学教授や経済人と積極的に交流することにより短期間の中でも成長ぶりが顕著でありました。また、自分の将来に対する考え方も何かしら掴めたようでした。私も同行して吸収力の強い若い高校生が海外交流する素晴らしさと大切さを実感しました。

こんな体験から今回の海外交流には大きな期待を持って送り出すことが出来ました。

参加された諸君が体験を活かしてこれからの大いなる発展に繋がるものと活躍を期待しています。

基金創設にご協力いただいたＰＴＡや同窓生、企業の皆さんに心から感謝申し上げます。

（結団式）

（深圳駅）

HABATAKE!黒陵への期待

ＰＴＡ会長　八重樫　　敏

PTA 会長の八重樫と申します。平素より当校 PTA に対しましては格段の御理解と御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、「 HABATAKE ！黒陵」事業がこのように多くの意欲のある生徒さん達と共に活動されておりますことについても、保護者を代表してこころから嬉しく思います。

平成 27 年度からスタートした「 HABATAKE ！黒陵」事業ですが、これまた同時期にスタートした「きたかみ世界塾」事業とともに世界をリードする価値創造型人材育成プログラムとして、本校の教育方針である「人類社会の発展に寄与する人材の育成」を実践するため、ともすれば本来手段に過ぎない「進学」が目的化することなく、生徒一人ひとりがそれぞれの人生の目的を主体的に自覚して高校生活を送るため本校に必要不可欠な事業になったことは、我々保護者としても非常に頼もしく思うところです。また、この事業に取り組む過程においては、生徒同士のみならず様々な社会人との関わりがあり、そこで得られる学びもとても貴重なものだと思います。

見渡せば、我が黒陵の同窓生の先輩諸兄には、国内だけでなく世界中の様々な分野で活躍する方々が大勢いらっしゃるわけですが、単にそういう先輩がいるということを知るにとどまらず、自ら積極的に世界にその身を投じて得られる経験もまた貴重なものであり、それを学校に持ち帰って全体として経験や情報を共有することで、この黒陵をもう一つ上のステージに上げることも期待できるのではないかと思います。

この新たなチャレンジが成功し、子供たちが自信を持って世の中に羽ばたくことを期待すると共に、我々 PTA としても可能な限り支援していきたいと思います。

（深圳職業技術学院で広東語の授業に参加）

（バーチャルリアリティ体験中）

― 行　程　表 ―

３／１２（日）　香港へ移動

昼食：各自、夕食：機内
宿泊：ＨＡＲＢＯＵＲ　ＰＬＡＺＡ　８　ＤＥＧＲＥＥＳ

３／１３（月）　午前、深圳へ移動
午後、テクノセンター西村美砂さんの講話
オプチロム会長石井次郎さんの講話

朝食：ホテルのバイキング　昼食：レストランで中華　夕食：センターで和食
宿泊　Vienna International Hotel

３／１４（火）　午前、久田社長の講話、久田有限公司の工場見学
東京彫刻工業の工場見学
午後、第一電材の工場見学　梅沢社長の講話

朝食：ホテルのバイキング　昼食：レストランで中華　夕食：センターで和食
宿泊　Vienna International Hotel

３／１５（水）　午前、東京彫刻工業で実習
午後、久田有限公司で実習

朝食：ホテルのバイキング　昼食：センターで和食　夕食：センターで和食
宿泊 CENTURY　PLAZA　HOTEL

３／１６（木）　午前、深圳職業技術学院、学校訪問
午後、「ツァンワンフートン」会社訪問
「ＳＮＡＩＬＮＥＳＴ　ＴＥＣＨＮＯＬＯＧＹ」会社訪問

朝食：ホテルのバイキング　昼食：レストランで中華　夕食：レストランで中華
宿泊 CENTURY　PLAZA　HOTEL

３／１７（金）　午前、香港へ移動
午後、ビクトリアピークス　レパレスベイ　女人街　夜景

朝食：ホテルのバイキング　昼食：レストランで飲茶　夕食：レストランで中華（広東料理）
宿泊：ＨＡＲＢＯＵＲ　ＰＬＡＺＡ　８　ＤＥＧＲＥＥＳ

３／１８（土）　帰国

朝食：ＢＯＸ（香港風弁当）　昼食：機内　夕食：各自

多文化への理解と協調

３年１組６番　鎌　倉　　将

（弓道部）

私は、中国に行く前あまり中国に良い印象を受けたことはなかった。

中国人の暴動や日本に向けてのさまざまな嫌がらせのみをニュースなどの報道機関で目にしてきたからだ。だから、そういった点では不安になる節はあった。しかし、いざ行ってみると全く違ったものが見えた。

私たちは滞在期間のほとんどを深圳テクノセンターという日本企業が海外進出の足掛かりとしている所で活動した。そこでは、様々な年齢層の主に女性の中国人の方々が、働いていた。深圳テクノセンターの中にある日本企業の社長の方々や社員の方々に、会社のことについて様々な話を聞くことができた。中国で働くうえで一番難しかったこと、中国に来て変わったこと等様々な話を聞いた。その中で一番印象が強く残ったのは、言語をコミュニケーションが取れない理由にしてはいけないということだ。現地で働いている日本人社員の方々が口をそろえて言っていた。テクノセンターを作った石井次郎さんは、今でこそ話すことはできるが最初は全く話せなかったそうだ。もともと私はコミュニケーションのツールは言語だけだと考えていた。しかし、話を聞いて様々な手段で違った言語を話す人と、コミュニケーションを取ることができることが分かったので、これから海外の人と話す際も、言語は当然、いろいろな手段を通じてコミュニケーションを取りたい。

私たちはそういった話を聞くことに加え作業の実習をさせていただいた。当然私たちは、初めての体験なのでまったくわからなかった。そこでは、中国人の方が中心となって作業の内容や作業方法を教えてくれた。最初の方は、理解できない申し訳なさなどがあったが、回数を重ねるにつれだんだんと意味がわかるようになり、無事に実習を行えた。ここで実際に言葉は、必要条件ではあるが十分条件ではないことが身にしみて感じられた。今思うとすごく貴重で、かけがえのない時間だったと思う。出会った人すべてに感謝したいと思ったし、これから違う面で恩返ししたいと思った。

ここからは、研修以外の中国の良かった点を書きたいと思う。

まず一つ、人が温かいことだ。中国の報道をみるとほぼ 100 %マイナスのことを報道していると思う。しかし実際に会って、コミュニケーションをとると全然冷たい態度でなく、むしろ親切であった。優しく色々なことを教えてくれたり、中国のマニアックな所について話してくれたりすごく親しげな雰囲気で接することができた。自分的には、中国人が冷たいなら、日本人も冷たい気がする。人が苦しんでいても見て見ぬふりをする人がいたり、人を傷つける人がいたり、日本は中国に対して、いろいろな偏見をもっているがあくまでそれは偏見に過ぎなかったと感じた。中国人の悪い一面だけを見るのではなく、批判したいのなら実際に肌でその悪い面を感じて批判してほしい。私は、日本人と大差なく感じる。多少、文化の違いで持っている価値観やマナーでいやなことがあるかもしれないが、それは相手も一緒なことであり、自分のことだけを押し付けるのは独善的でおこがましく感じる。だから私は多少のことは目をつむり、一回肌で感じてほしく思う。

二つ目は料理だ。中国の料理と言えばと言われるとおもいつくのは、麻婆豆腐などだと思う。麻婆豆腐を食べて思ったのは、本当に美味しい。ということだ。日本の物とは違って辛みが少し強いが、むしろそれも旨みの一部であっという間に完食した。本当に美味しいので是非、俗に言う「本場の味」というものを体感してほしい。ちなみに私は日本に帰ってきてから麻婆豆腐を食べるときはラー油を一周かける。日本の家庭用麻婆豆腐、甘すぎる。

最後に私たちは香港へ行った。あいにく天気が悪く山の方の夜景は見ることができなかったが、シンフォニー・オブ・ライツという海に面したところで行われる光のショーを鑑賞した。13 分程度であったが心奪われるには 10 秒もいらなかった。これも実際に目の当たりにしなければ分からない感動だと思う。このようなかけがえのない体験を若いうちにできて幸せだと思うし、内向的な考えを打ち消すきっかけとなったと思う。こういった機会を見過ごすか、手を出してみるかで、世界を見る目が一変すると思う。変わるきっかけは、非日常と対面することが一番簡単だと思った。

（東京彫刻工業）

初めての海外交流事」業を終えて

３年１組２２番　岩　淵　菜々花

（弓道部）

はじめに、私が今回の海外交流事業に応募した理由は、海外に行くことで視野を広げ、様々なことに興味を持ちたいと思ったからです。私は中学生の時に、マララ・ユスフザイの‘わたしはマララ’という本に出会いました。私はそのマララさんの姿に心を打たれ、大きく言うと、そこからより海外に目を向けるようになりました。また、ＮＧＯ団体にも訪問し、世界の貧しい子供たちのために何ができるかについて考えたこともありました。

そして、果たして自分には他に何をすることができるのかと考えてみたところ、今回の海外交流事業は私にぴったりでした。実際、１年生の時に行われていたベトナム派遣事業にも応募を試みましたが、学年１人という枠には入ることが出来ませんでした。そのため、海外に行きたいという私の思いはより一層強まり、今回の中国派遣が決定した時はとても嬉しく有り難い気持ちでいっぱいでした。

ここで、深圳のテクノセンターや、工場、企業で学んだことを綴る前に、私からひとつ質問があります。みなさんは、“中国”と聞いて何が思い浮かびますか？
恐らく、治安が悪いとか、冷たい心の人ばかりだとか、マイナスなイメージを持っている人がほとんどだと思います。実際、日本人の９割近くが中国に対してマイナスなイメージを持っているそうです。私もその一人でした。

しかし自分の目で確かめたところ、日本と比べると、交通の便であったり、衛生状況は確かに不十分だと思われましたが、携わった方々は、本当に優しい心を持った人で溢れていたと自信を持って言えます。工場での実習のときなど、日本語を話せなくても、精一杯私たちに作業を教えようとして下さいました。お互いに心が通じ、意味を理解することが出来た時には、何か大きなものを得られたような気がし、とても嬉しかったです。言語が異なっていても、伝えようとする気持ちがお互いにあれば、通じるということは可能になると学べました。また、私たちがミスをしてしまっても優しく励ましてくださり、成功したときには一緒になって喜んでくれました。どんな時も笑顔で私たちを見守って下さり、中国の方々の優しさを常に感じることができました。

皆さんにここでもうひとつ質問があります。”MADE IN　CHINA”と聞いてどんなイメージを持ちますか？壊れやすくて安全ではないなど、やはりマイナスなイメージを持っている方が多いのではないかと思います。洋服や電化製品や食品など、日本には多くの中国製が出回っていますがそれらは本当にすぐ壊れてしまいますか？本当に安全に欠けていますか？

この質問をある工場で働いている方に尋ねられたとき、私の中では大きな衝撃がありました。今まで何気なく使っていたものを見てみると、どれも中国製ばかりでしたが、すぐに壊れたりとか、危ないと思ったことは一度もありませんでした。ただの私の勝手な偏見に過ぎなかったのです。やはりここでも中国製に対してマイナスなイメージを持っている方が多くいるそうです。そして、”MADE IN CHINA”ではなく、”MADE IN PRC”と表記を変えて販売されていることが最近少しずつ増えていると知っていますか？

”PRC”とは、”People’s Republic of China”という「中華人民共和国」の英訳です。“PRC”だと中国だと知らずに買うので、同じ中国製でも売り上げが伸びています。このことから分かるように、印象と言うのは、とても重要な事だと思います。

しかし、先ほども述べたように、実際は不良品などではありません。立派な製品です。私たちが中国製に関してマイナスなイメージを持ってしまっているのは、おそらくニュースで流れている悪い内容だけで中国全体を評価しているからだと思います。一点から見るのではなく、あらゆる点からみて考察し、自分の目で正確に中身を知ることがどれほど大切なことなのか、改めて感じる事ができました。

私にはもう一つ印象に残った言葉があります。お話を伺った方々に「ダメ元でもとにかくやってみることに意味がある。積極的に行動するべきだ。」とお話しされました。私は前向きに考えることができず、積極的に行動することが欠けていました。しかし、これを機に、何事にも挑戦し、「自分」というものをしっかりと築き上げていきたいと思います。

今回学んだことを将来の職業のためにも活用していきたいと思います。そして、さらに自分の視野を広げ今後の自分自身の更なる成長につながるように今後の様々な体験と今回の体験を関連づけていきたいです。そして、きたかみ世界塾などの活動にも結びつけていきたいです。

最後に、今の１、２年生にも、このような海外で学べる機会があった時には、ためらわずに是非参加してほしいと思います。そして、保護者、同窓会の方々、地域企業の方々の多額の寄付によってとても貴重な体験をさせて頂きました。私たちを引率して頂いた先生方、中国で受け入れて下さったテクノセンター、工場、企業などの方々、その他の海外交流事業に携わった全ての皆様、本当にありがとうございました。

（第一電材）

成長した自分を見つめて

３年１組３３番　柴　田　優　花

（美術部）

自分の視野を広めるため、世界で活躍する深圳へ赴くことを決意しました。深圳では見たこともない景色、素晴らしい出会い、全てが輝いて見えました。もし中国への不安から一歩踏み出さなければ､きっと何も変わろうとしなかったでしょう。そのぐらいの多くの経験と感動を私は一生忘れることができないと思います。

今まで私は深圳という地名すら知らず、正直興味もありませんでした。ですが今ならみんなにお勧めしたいぐらい好きな土地になりました。日本を飛び立つ前、私の頭では中国＝良くないイメージでした。ですが、それはほとんど日本のマスコミの誇張によるもので実際は治安も悪くなく本当に百聞は一見に如かずだと感じました。

深圳では日技城工業園(テクノセンター)にて３日間の研修に参加しました。テクノセンターは日本の中小企業の海外進出、その後の独立までをサポートする会社です。私たちは、ＤＩＤ（第一電材株式会社)、東京彫刻工業株式会社、株式会社ヒサダの３社で工場研修をさせていただきました。ＤＩＤさんでは数多くの種類のケーブル、コネクターを取り扱っていました。ケーブルは機械製品において重要な部品であり、繊細な作業を狂いもなく淡々とこなしていく従業員の皆さんに驚きました。そこで私ははんだ付けとケーブルにコネクターを付ける作業を行いました。はんだ付けは中学生の時の授業以来で不安もありましたが数をこなすたびコツを掴め、楽しみました。コネクターを付ける作業はライン作業であり、製品として扱われるものなので自分の仕事に責任感と同じ作業をする仲間への連帯感を感じました。東京彫刻工業株式会社さんでは、製品番号や社名、ロゴマーク等を打刻する刻印機の生産をしています。私たちが普段使用している機械製品や家具に篆刻されているものはもしかしたらこの場所で作られた機械から成るものと思うとうれしくなりました。私が体験させていただいたのは刻印機の組み立て、はんだ付け、製品の確認です。自分が組み立てたものが世界のどこかで使われると知らされたときは緊張で不安でしたが、見たことのない部品を扱うのが楽しかったです。完成させることができなかったのが心残りです。トンカチやコンプレッサーは部活で使っているぶん楽に作業ができました。最後の株式会社ヒサダさんではプラスチックの部品にばねを取り付ける作業をしました。初めは１つを作るのに何十秒もかかってしまいましたがだんだんと慣れ 1000 個以上は作れたと思います。

3 社の企業説明を聞き共通に話されていたのは､最も重要なのは言語ではなく人とのつながり、信頼関係を築くということです。海外で働く際重要視されるのは周囲の人とのコミュニケーションであり、そのためには言葉が通じないと始まらないと考えていました。ですがそれよりもお客様や従業員などの方々と真面目に付き合い、よりよい関係づくりの大切さを知りました。研修中、かなり細かな作業でもミスすることなくこなしていく集中力、慣れない作業に戸惑う私に言葉は分からなくても丁寧に教えてくださった姿、笑顔で迎えてくれた方々、日本にいては見ることも経験することのできないものを多く味わいました。言語、国境関係なく様々な優しさに触れ、少なからず成長したと実感します。

テクノセンターだけでなく、深圳職業技術學院という国内屈指の商業大学も訪れました。日本とも毎年交換留学を行っており、進路の幅が一気に広がりました。留学生の中国語の授業に参加した時ほとんどが欧米の方ばかりで改めて深圳のすごさを感じました。また国の支援や学校体制に日本との経済面での差を感じ感嘆しました。

深圳で多くの企業、空気、人々その他さまざまなものに直に触れ､本当に貴重な体験をしました。自分の固定観念にとらわれず、五感で感じたことは自分の殻を破ったようです。これから自分自身で行動する際のヒントをもらいました。今後このような機会があれば多くの人が成長し岩手、日本の発展につながるはずです。最後、ＰＴＡ、同窓会の方々、講話をしてくださった関満博先生その他ご協力くださった多くの方々に感謝申し上げます。

（久田有限公司）

百聞は一見に如かず」

３年２組２５番　及　川　真奈加
（吹奏楽部）

私は 3 月 12 日から 18 日までの一週間、「ＨＡＢＡＴＡＫＥ！黒陵」の深圳派遣プロジェクトに参加しました。この一週間は私にとって本当に驚きの連続で、実際に海外で得る経験の大切さを改めて感じました。全ては語り尽くせませんが、私の参加の経緯や実際の研修の中で経験したことをお伝えしたいと思います。

まず、私がこの研修への参加を希望した理由は、見聞を広める良い機会だと思ったからです。私は将来国際的に活躍するためにも、現在の世界の様子を実際に見聞きできるチャンスを得たいと考えていました。そんな中このプロジェクトを知り、これを活用しない手はないと思いました。派遣前は私の中国に対する否定的なイメージや、海外経験のないことから不安なことが多く、これらの理由から参加を迷ったこともありましたが、決めつけで可能性を消してしまうようなことはしたくないと思い、積極的な思いで参加を決めました。

私がこの派遣の中で特に意識していたことがあります。それは「質問すること」です。どこに行っても、何を経験しても、必ず最低一つは質問をしました。これはとても大きな役割を持つと思っています。ただ受け身で聞いてしまうのは、自分のためになることを聞き逃してしまうときもあります。せっかくの機会、全てを有意義なものにしようと、質問することを継続しました。その結果、自分のものとして考えることができただけでなく、相手が「この人はやる気があってここにいる」という印象をもってくれる結果にもなり、自分のやる気を示すことにもこれはよい方法だと感じました。

次にお伝えするのは、今回、多く見学・体験をさせていただいた深圳テクノセンターでの経験・お話についてです。深圳テクノセンターは、1991 年に日本の中小企業の中国への企業進出・工場運営をサポートする目的で設立されました。設立当初は来料加工（材料を輸入し、加工を中国・深圳で行い、製品を他国へ輸出する）の関税が免除されていたためこの形式が主に行われていました。しかし、中国は「世界の工場」から「世界の市場」、つまり、国内の取引が重点に置かれるようになっていて、もとの来料加工はテクノセンターでは来年 9 月に終了するということでした。この他にも以前との大きな変化として、労働者の賃金が上がったことが挙げられます。昔は出稼ぎに来て、収入の 9 割を仕送りしていた人も多かったときに比べ、今は決して低くない生活に余裕を持てるほどの給料が支払われているということでした。結局のところ、現在の中国は新しく安い労働力を求めての進出はしにくいといって良いでしょう。そんな中、中国でのビジネスを続ける会社がいる理由は、そこで時間をかけて育ててきた高いレベルの従業員を他の場所で育てるには多くの時間やコストがかかるからというものでした。

また、その後のソフトウエア関連の会社の見学では、本当に最先端の開発が行われている、発展した深圳の現状を間近で見ることができました。新しく設立された会社も多くあり、深圳は新しい会社の設立への支援も積極的に行っているからこそ、このような取り組みの中で経済が急激に発展しているのだと思いました。

テクノセンターの設立者である石井さんや、他の方々のお話では、海外で生活する経験というのはものの見方の変化や、知見を広めること、自信を持つことにつながったといいます。また、世界で通用することを身につける、いわゆる手に職をつけることができれば、世界中どこに行ってもなんとかなるということでした。言語は選択肢を増やしますが、言葉が通じないことを理由に挑戦しないのはもったいないなどの言葉もいただきました。これを受けて、まずは挑戦してみることが第一歩だと感じ、これから何かをしようとするときはいろんな理由をつけて逃げてしまうのではなく、やってみることを大事にしたいと思いました。

町の観光や会社の見学から、中国製品や中国の人々などに対して自分が持っていた印象は本当に偏った知識によるものだったことに気がつきました。「百聞は一見に如かず」の言葉通り、様々な情報があふれている中でも、自分の目で見て知ったり、感じたりしたことの方が何倍も大切です。これからもこのことを意識していきたいと思います。

これから先、同じような取り組みがあるなら、多くの皆さんにその機会を自分のものにしてもらいたいです。何か理由をつけてあきらめてしまうのは簡単ですが、挑戦して得られることは本当に大切です。今持っている知識や印象だけではわからない様々なことを、経験を通して知ってほしいです。

終わりに、私がこのような貴重な体験をすることができたのは、同窓会をはじめ、保護者の方々など本当に多くのご支援があったからです。私はこれからも感謝を忘れずこの経験を生かしていきます。本当にありがとうございました。

（深圳職業技術學院）

中国で学んだ事

３年５組２７番　菊　池　菜　穂
（陸上競技部）

高校生の私達は、今自分の人生を豊かにするために日々学校で勉強しています。私達はだんだん人生の「選択」に近付いてきて、迷ったり、考えたり、自分が選んだ道との距離に不安を覚えている人も多いと思います。そこで私は将来のイメージを膨らませる為、今回中国に行くことを決意しました。

深圳テクノセンターでは、実際に製品製作の作業をしました。現地の人達は丁寧に教えて下さり、製品を作る時も丁寧でした。工場の人達は女性の方が多く、細かい作業を何時間も集中して行っていました。Ｍａｄｅ　ｉｎ　Ｃｈｉｎａというと、私達は勝手に悪い品質と想像してしまいがちですが、この工場では決してそんなことはありませんでした。

また、深圳職業技術学院にも行きました。そこの設備は日本でも揃えるのが難しい様なものが多くあり、充実した学習ができそうでした。私はその大学の説明を聞いたとき、入学したいと思うほどでした。留学生クラスの授業風景はほとんどの人が国が違う同士なのに明るくて、はきはき話して、他人に合わせず、一人ひとりが自分をもっているようでした。大手企業を見学したときは、ＶＲを使って商品開発をしていたり、音楽ゲームの開発、次にＡＩを取り入れようと考えていたりと日本と同じくらい、もしくは超えるのではないかと思うくらい技術が発展していました。

中国と聞くと、多くの人は良い印象を持っている人は少なく、行きたくもないと思っている人もいます。しかし、それは自分の「選択」を消している１つの行為だと気がつきました。私達は色々な世界を知る事で様々な選択肢を増やす事が出来ます。つまり、たくさん経験をすることで私達はより自分が良かったと思える選択が出来るのだと思いました。なんでも理由をつけてやらないより、ちょっとやってみようかなと思った事を実行するほうが案外大きな収穫を得たりすることが多いと思いました。

私が現地の日本人の方と話した時にその人はこんなことを言っていました。「会話は努力である。」私は後にその言葉の意味は、人と話す時は恥ずかしがらず、真面目に向き合い、人間関係を大切にしていく努力をしてきた人が初めて、自分を見つける事が出来るということだと思いました。

私達が人生を豊かにするために行うべき事は、たくさん勉強して大学に入学したり、良い会社に就職することかもしれません。しかし、それだけでは「豊か」とは言えません。自分がやってみたいことに挑戦し、そこで経験した事に感動したり、関心したりして、自分を変えていくことが「豊か」にすることなのだと今回の経験を通して学ぶ事が出来ました。

最後に今回の HABATAKE!黒稜は多くの人達の支えのおかげで参加させていただく事ができました。この経験を活かし、これから起こる様々な事に挑戦し、人の役に立つ大人になっていきます。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

（久田有限公司）

自分の知らない世界

３年５組２８番　菊　地　萌　香
（バスケットボール部）

グローバル人材を育成する目的で実施された海外交流事業「HABATAKE ！黒陵」の派遣生徒に選ばれ、平成 29 年 3 月 12 日～ 18 日までの一週間、香港・深圳（中国広東省）に行き、深圳テクノセンターでの講義や実習、深圳大学・企業見学をしてきました。

最初に深圳テクノセンターでの講義や実習で学んだことや感じたことを話します。中国広東省は「世界の工場」や「世界の市場」と言われており、深圳テクノセンターは日系企業の中国進出を支援している場所です。ここでは多くの女性の中国人が働いていました。彼女たちは数百キロ離れた遠い地から約 20 ～ 30 時間かけて家族のために出稼ぎに来ます。自分の家族や親が故郷にいる人もいて、会えるのはほぼ年に一回です。稼いで貰った給料の約９割を家族に仕送るそうです。自分のプライベートスペースは二段ベッドのどちらかのみで、決して良いとは言えないような生活をしていました。ですが最近では中国政府が所得倍増政策をとっていることもあり、給料が上がり豊かになっているそうです。ですからオシャレをする人やスマホを持つ人が増えており、どこの国の若者の女性も同じような生活をしているのだと思いました。

中国人は身体力・視力や集中力がよく、器用なことから実習の速さや丁寧さはほかの国の人よりもいいそうです。そのため 2 ～ 3 時間の立ち作業も文句ひとつ言わずに黙々と取り組んでいて、とても忍耐力があるなと思いました。私も実際に立ちながら作業しましたが、長時間立ちながらの作業は足や手が痛くなり、すぐに集中力が切れてしまいました。自分が実際に体験したからこそ作業の大変さを知り、中国人の素晴らしさが身に沁みました。

テクノセンター内にある日系企業で働いている方にお話を聞き、改めて人間関係は大事だと実感しました。他人と真面目に付き合い、真摯に対応するなど人とのつながりが大事だとおっしゃっていて、本当にその通りだなと思いました。また相手をどれだけ信頼し､信頼されるかが大事なので、これからはまず自分から相手を信頼して、良い絆で結ばれるような関係を築こうと思いました｡「恥ずかしがらずに何にでも Try し、チャンスを逃さないようにしろ」というお言葉をいただき、一度しかない自分の人生において後悔のないような生き方をするために、時間を無駄にせず、様々なことに興味を持って何事も恐れずにチャレンジしていこうと思いました。

次に深圳の大学での感想です。私たちは深圳にある「深圳職業技術學院」（以下深圳大学）に行ってお話を聞いてきました。大学には普通の大学と職業大学の 2 つタイプがあります。ここの大学は中国の中で No 1 の職業大学です。96 ％の就職率で､実用性があり即戦力となる人材を作ります。職業大学で唯一留学生を受け入れています。留学生だけのイベントが月に 2 回あり、企業見学や文法や文化の勉強をします。その他にも留学生専用の寮や授業があり、留学生にとっては良い環境が整っています。私はどこにも留学する気はなかったのですが、今回の話を聞いて留学してみたいなと思いました。

最後に深圳市内の企業見学についてお話します。今回、ソフトウェア関係の企業でお話を伺いました。1 社目は音楽機器を練習するためのゲームソフトを作っている会社に行きました。起業して 2,3 年しか経っていないにもかかわらず､年間 3 ～ 5 個の新ソフトを作っていて、売上は日本円で 40 億円と、素晴らしい成果を収めている会社です。2 社目は家具を売るために virtual reality 通称 VR を使って再現して販売している会社に行きました。設計会社と協力して作成し、家具会社に販売しています。中国には VR 協会がありますが、エンジンを作っているのはこの会社だけだそうです。今後は VR を教育にも展開することを考えているそうです。

私は今回海外に行くことが初めてで、期待もありましたが不安のほうが多くありました。中国に行く前の中国のイメージは決して良いものではありませんでした。ニュースで報道される情報しか聞くことができず、爆買いや反日デモ、空気汚染など悪い情報ばかりで、実際もそうなのだと思いました。しかし実際に行ってみると、想像していたような悪い状況は全くありませんでした。深圳の町には緑が多くあり、空気は綺麗でした。優しい中国人のガイドさんが深圳市内を丁寧に案内してくださり、テクノセンターでは言葉は通じないものの、身振り手振りで作業の仕方を教えてくれる優しい人もいました。日本のテレビは視聴率をとるために中国の悪い部分しか放送しないそうです。そのため中国に対して悪いイメージしかない人が多いと思います。私もその一人でした。です

が実際に行ってみて、今まで聞いてきたこととは違う状況を見て、実際に自分の目で見て確かめることは大切だと改めて感じました。また自分の知らない世界を見ることや今まで経験してこなかったことを体験することができ、行ってよかったと思いました。1 週間の間に学んだことは今後の人生できっと役に立つと思うので、今回の経験を無駄にせず、どんなことにも活かしていこうと思いました。

今回このような事業を企画してくださった学校、基金を寄付してくださった保護者の皆さん、同窓会員の皆さん、地域企業さんなど、今回の派遣事業で関わってくださった皆様に感謝申し上げます。

中国という国は皆さんが思っている以上に良い国です。確かに日本のテレビが放送していることが全て違うわけではありません。ですが全てが合っているわけではないということを覚えていてほしいです。悪い人ばかりではなく、優しくていい人もたくさんいます。また中国の製品だからと言って買わない人もいると思いますが、中国の製品が全て悪いとは限りません。中国の製品でも質が良いものもたくさんありますし、安全なのもたくさんあります。ですから一度中国のものを買ってみることも大事だと思うので、ぜひ何か中国の製品を買ってみてください。

「HABATAKE!黒陵」はこれからも毎年行うそうなので、少しでも興味を持って行ってみたいと感じた方は行くことをお勧めします。自分の知らないことを知ることができるいいチャンスです。ぜひ行って自分の目で確かめてみて下さい。

（東京彫刻工業）

深圳で学んだこと

２年４組２４番　北　村　芳　野

（吹奏楽部）

皆さんは、中国に対してどのようなイメージを持っていますか？

私は研修前、正直マイナスのイメージを持っていました。しかし、研修を通してそのようなイメージは薄れていきました。私が見てきたのは中国の一部分であり、その中でも良いところばかりだったのは承知しています。それでも私は、自分の偏見が取り除かれ、視野が広がっていくのを感じました。また、挑戦することの価値を学ぶことができました。これから、私がこの海外派遣事業に興味を持った理由、研修中特に印象的だったことなどについて書いていきたいと思います。

- 海外派遣事業に興味を持ったきっかけ

  私がこの事業に興味を持った理由は大きく分けて２つあります。

  １つ目は、「研修の場が海外であること」。自分でもミーハーな考えだと思います。しかし、私は修学旅行先として台湾という候補がなくなったことを非常に残念に思っていたので海外というだけで行ってみたいと思いました。

  ２つ目は、「工学に興味があること」。私は進路として工学部に入りたいと思っていることです。深圳テクノセンターは、現地の人の雇用を支えたり、技術を伝えたりすることで中国の地域社会に貢献しています。私はただ工業の技術を見るだけでなく、工業が社会に与える影響についても学んできたいと思いました。

- 深圳テクノセンター代表幹事　石井次郎さん

  私たちはテクノセンターに到着し、会議室のようなところで担当の方からテクノセンターについての説明を受けました。しばらくしてテクノセンター代表幹事の石井次郎さんがいらっしゃいました。代表幹事と聞いて少し緊張していたのですが、とても穏やかで、良い意味で近所のおじいさんという雰囲気でした。７０歳を超えるご高齢にも関わらず非常に明朗快活で、たくさんの興味深い話を聞かせてくださいました。「僕は自分の腕一つでどこの世界でも生きていける自信がある」とお聞きして、本当に素晴らしいと思い、少し衝撃的だったことを覚えています。石井さんは若いころさまざまな国で暮らしたことがあるそうです。新しい環境へ身一つで行き、その都度現地

で必要な言語、技術を習得したのだそうです。石井さんは、「迷っているなら行ってみなさい。若いうちはなんでもできるんだ。どんなところでも人が住んでいるのだからなんとかなる」ともおっしゃっていました。その考え方は確かに納得できるものでした。また同時にそのようなことが言えるなんてかっこいいなとも思いました。

- 会社のモットーは「即」　株式会社ヒサダ

　テクノセンターに入居している企業の一つ、株式会社ヒサダはプレス加工を主にやっている会社です。名古屋でスタートしたこの会社ですが、日本の厳しいコストダウン要求を受け、海外へ新たなチャンスを求め、テクノセンターに飛びこんでいったのだそうです。なんと、そのとき持って行った機械はトンプレス機 1 台のみ、スタート時の従業員はわずか 5 人だったといいます。しかも日本の仕事は持ってこなかったため、当面受注先も全くない状態。そのような先が見えないなか海外へ飛び込んでいけるなんて信じられないと思いました。しかし、久田さんは「即」行動することが大事なんだと言います。久田さんが海外進出先として中国を選んだのも、「ここの労働者の目が輝いている。来てみたいな。」と思ったからだそうです。その「来てみたい」という気持ちで行動するなんて、傍から見れば無鉄砲にも映るかと思います。でも、そのように「即」行動して成功した方が目の前にいるというのが不思議な感覚でした。そのような「当たって砕けろ」的なチャレンジ精神を、私も見習いたいです。この「即」というのは今でも会社のモットーとして意識されています。例えばメールは 5 分おきに確認し、即返信するそうです。確かにそのほうが相手にやる気が伝わり、信頼関係にも良い影響を与えるのだろうと感じました。

- 不良品防止への強い意識

　皆さんは中国製の製品は質が良くない、また、不良品があるのではないかという考えを持っていませんか？私はそのように思っていました。しかしその考えは研修を通して消えてしまいました。どの企業も会社について説明する際、「製品の質に自信がある」とおっしゃっていました。工場内のホワイトボードに月ごとの不良品の数を記録したり、製造ラインの不良品をチェックするところに目の利く人を配置したりと、気をつけているのがよく分かりました。すべての中国製のものが質のよいものだと言い切ることはできませんが、中国製のものを一概に質が低いとも言えないなあと実感しました。

- 人間性の大切さ

　今回、主に 3 つの企業の社長さんからそれぞれの経営方針について説明を受けました。その社長さんたちが共通しておっしゃっていたのは、「技術より人間性を重視して採用する」ということです。背筋が伸びた子、明るい子など、一緒に働いて楽しい人を採用したいのだそうです。人間は一人では何もできないので、周りとのつながりが大事なんだなと思いました。

　また、社長さんをはじめ、工場で会った方々はとても優しく親切で、明るい雰囲気でした。久田さんが、「成功するためには人を好きになることだ」とおっしゃっていました。その日の研修のあと、みんなで街を観光しようと提案してくださる社長さんもいらっしゃり、その人柄の良さが成功の秘訣なのかなと思いました。

　この研修を通して、視野を広げることができ、積極的に生きる素晴らしさについて学ぶことができました。研修前からそのようなことを学べるとは想像していましたが、実際に行ってみると想像以上に刺激的でした。やはり、国内で学ぶだけでなく、実際に海外を見てくることは本当に意義あるものだと思います。ぜひほかの人たちも海外で学ぶ機会があったら積極的に参加してほしいです。

　最後になりましたが、このような素晴らしい事業を立ち上げてくれた学校、同窓生の皆様ををはじめとする寄付をしてくださった方々、海外という場に快く送り出してくれた家族に感謝します。この研修で学んだことは、常に日常生活でも意識できるので、周囲にも還元していきたいと思います。そしていつかまた海外で学ぶ機会を持てたらと思います。本当にありがとうございました。

（ツァンワンフートン）

自分の目で確かめる

２年１組３番　及　川　路　央
（ラグビー部）

この研修を通して私は「実際に自分の目で見ること」､「もっと広い価値観で世の中を見ること」の重要性を強く感じました。

今まで中国に対して抱いていたイメージはおそらく多くの日本人が持っているようなイメージと同じでした。反日の人が多いのではないか、だとか人件費が安くて品質も低いのではないかというようにマイナスのイメージが多かったかもしれません。しかし、そうした先入観は当たっていませんでした。深圳市は経済特区などの影響を受けてとても速いスピードで発展した中国有数の都市です。それまでは都会といえばやはり東京をイメージしていましたが、今回中国を見たことでその考えが大きく変わりました。深圳は東京が物足りなく思えるほどの超高層ビルが立ち並び、道路は片道５、６車線が普通という今まで見たことのないような都会さに圧倒されました。それでいて街中に亜熱帯の植物が生い茂っていて思った以上に空気がきれいでした。深圳は率直な感想としていい街だなと思いました。これほど発展しているため人件費は決して安くありません。訪れたテクノセンター内の株式会社ヒサダの社長さんは次のようなことをおっしゃっていました。「コストが安いから中国進出という時代は終わった。今は品質で日本製品と勝負している。」社長さん自身も中国進出のきっかけは新たなマーケットを開拓するためだったという。どうしてもMADE IN CHINAと聞くと品質は落ちるのかなと思ってしまいたが、この工場では不良品を絶対に出さないという徹底した品質管理が行われていました。もちろん働いている人は全員中国人です。日本人は技術で世界と戦っているというイメージがありますがもう外国との差はあまりないのではないかと思ってしまいます。そうした時にわざわざ値段の高い日本製の製品を買ってもらうにはどうしたらいいのか、もっと真剣に考える必要があるのではないかと個人的に思います。

また、この研修を通して自分の価値観が大きく広がったと思います。それまでは海外で仕事をしたり、生活したりすることは特別な話で自分にはあまり関係がない話だと思っていました。しかし深圳で働いている日本人の方々と会って話をすると、決して特別ではないと思いました。おそらく元から海外で働こうと思っていた人はいなかったと思います。それでも現地の人とコミュニケーションをとれるくらい中国語を喋れて、食べ物や生活も送れているのを見ると、案外暮らそうと思えば暮らしていけるのだなと思いました。そして、自分の将来を考えるときに簡単に決めてしまわずに世界にも目を向けて、たくさんの生き方を考えるべきだと思いました。今回会った方は「海外では常に新しい体験ができるので飽きない」と言っていました。私も短い一週間の間でしたが多くの新しい体験をすることが出来ました。例えば、全く言葉がわからなくても何とか思いを伝えようとジェスチャーを交えながらコミュニケーションをとろうとしました。そして相手が何を伝えようとしているのか分かったときはとても嬉しかったです。また、現地の食事方法で食事をしたり、実際に自分で買い物をしたりと現地でしか出来ない体験をたくさんさせていただきました。この経験はとても貴重で自分の財産になったと思います。そして、何よりも今回関わった人たちは皆さんとてもいい人でした。各会社の社長さんや社員の方々、現地のガイドさんも皆私たちの研修がよくなるように、そして少しでも多くのことを学んで帰れるように協力してくださったのがわかりました。テクノセンターの方々は口をそろえて「人とのつながり」が大切だということをおっしゃっていました。この研修はたくさんの方に支えていただき、まさに「人とのつながり」を感じることが出来た一週間でした。

実際に自分の目で見てイメージと大きく違っていた部分をたくさん見ることが出来た一方で、悪い部分も見ることが出来ました。しかしそうした現状もただ話で聞いただけではマイナスのイメージしか持てなかったかもしれません。実際に自分の目で見ることによって良い面、悪い面を自分の価値観に沿ってしっかりと見ることが出来たと思います。これからはもっと自分の目で見ることを大切にしていきたいと思います。そのためにもより積極的に世界の様々なことを見ていきたいと思います。

最後になりますが、「HABATAKE!黒陵」を企画してくださった学校と協力してくださった皆様に感謝申し上げます。

（深圳国境）

深圳にて
２年１組４番　小　澤　誠　也
（ラグビー部）

私は、中国深圳での研修を通して、海外への視野が広がり、世界に目を向けるきっかけを得ることができた。深圳での約 3 日間にわたる研修では、深圳に進出してきた日本企業の話を聞き、また実修を行い実際に製品の制作を体験した。私が、学ぶ中で感じたことはどの企業の方も積極性があり、自ら進んで行動を起こすということだ。中国深圳という知られていない場所への進出だけでも大胆な行動と言えるが、それ以上に言葉の壁ももものともしない積極的にコミュニケーションを図っていくことがいかに重要であるかを実感した。ちょうど実修や見学の中で中国の方と関わる機会が多くあったため、細かい作業のやり方を聞くためにジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図りにいった。すると、言葉は互いに伝わらないが、表情や手振りで伝わっているという感覚もあり、やり方やコツも教えてもらうことができた。その瞬間、コミュニケーションも取れた、それ以上に中国の方々の優しさをとても感じる場面だった。積極的に話しかけることで、難しい言葉を並べるよりも互いの意思疎通もできたし、思いも伝わった。日本の社員の方も積極的なコミュニケーションで、中国の社員の方と連携を取りながら、質の良い製品作りに取り組んでいた。「積極性」を発揮していくことで、会社の発達や社員同士の連携が良くなることに繋がっていた。私は、自信がないときなどに控えめになってしまい、周りの様子を伺いがちだった。しかし、自分から先に立って行動していけば、良い結果もうまれ、何より自分自身の成長に繋がるのだと思った。

また、仕事について見聞きする中でも様々見て感じた。まず、見ていて一番に感じたことは中国の社員の集中力の高さだ。自分達が周りで見学していても、黙々と作業をする姿は日本の工場見学では見られない光景だと思った。細かい作業も流れ作業で淡々とこなしていた。この作業効率の良さも企業進出の理由の 1 つだと感じた。他にも日本企業に限らず、中国の企業も社内の仕事の目標・ノルマなどあった。それは、「質の良い製品を作る」や「製品を多く作る」といったものだった。中国の製品などに対し、日本はどちらかといえば批判的な印象が強い。しかし、各会社がより良い製品作りに取組んでいることを日本人は理解していかなければならないと思った。他にも、深圳の急速な発展を感じさせるものがあった。深圳の建造物はここ数年で建ったものばかりで日本との規模の違い、発展速度の違いがとても大きいのだと思った。中国の知らない部分をたくさん見ることができた。

今回中国での研修を通して、日本は中国に対し批判的なイメージを持ちすぎだと感じた。それは、メディアが悪い部分にしか着目しないため良い部分が伝わらないからである。日本は、もっと中国全体の良さも発信していくべきだと思う。わたしは、中国の方の親切心、優しさを知り、イメージが大きく変わった。中国の良い部分からもっと学んでいけば、日本もより発展していくのではないかと思う。

私は、海外派遣の事業に参加し、経験できたことで自分自身の考え方の変化や多くの学びからたくさん成長できる部分があると感じた。今まで海外に深い関心を持ってはいなかった分見てくるものすべてが新鮮だった。そして、これからの生活に生かしていこうと感じることも多くあった。「積極性」「行動力」「チャレンジ」この 3 つは特にも今後の生活の中で意識していこうと思った。「積極性」は、日頃の授業での発言など、「行動力」は自分から率先して行事などで行動していくなど、「チャレンジ」は部活動などでミスを恐れず挑戦していくこと、これらを確実にやっていこうと思った。海外により深い関心を持てたことで、将来的に海外と関わる何かをしたいという夢もできた。だからこそ、学習や部活動の部分で努力し、「文武両道」にこの黒陵で頑張っていきたいと想った。

（東京彫刻工業）

（久田有限公司）

海外交流事業を通して感じたこと

２年３組２３番　小　原　瑞　貴

（書道部）

今回、私は「HABATAKE 黒陵　海外交流事業」で中国の深圳に行ってきました。

近年の中国は目覚ましいほどの発展をとげており、特に深圳を含む沿海部の経済特区では、「ものづくり」いわゆる製造業など様々な分野の産業が日々進化しています。最先端のものづくりを現地で直に見て肌で感じることで、不確かだった自身の目標の具体化を図り、今後の活動をさらに充実したものにすることがこの研修に参加した動機であり、また目的でもありました。

今回が初めての海外だったので緊張や不安も少しありましたが、出発前は期待ばかりが募り落ち着きませんでした。

深圳には 4 日間滞在し、その間に「深圳テクノセンター」という日本企業の受け入れをしている施設での研修と「深圳職業大学」の見学を行いました。

「深圳テクノセンター」とは、日本の中小企業が無理なく中国で工場を始められる環境を提供する施設です。社長はどの企業も日本人ですが、テクノセンターの従業員はほとんどが深圳に仕事を求めてやってきた中国人です。遠い人は数千キロも離れた所から徒歩や列車でやってくると聞き、とても驚きました。

研修では実際に電線や小型の彫刻機械などの部品の組み立て作業を体験したのですが、何時間も立ったまま延々と同じ作業を繰り返すため、終わるころには集中力が無くなり足の裏に痛みを感じるほどでした。ここで働く人たちは、ほぼ毎日文句も言わず 8 時間もの間この作業をし続けるのだそうです。逆に、こうやって働くことをしなれば家族や自身の生活が危うくなってしまうのでしょう。

どの国や地域に住んでいようとも年齢を問わず、将来のためや生計のために「知識」や「技術」は必要不可欠であること、そしてそのために私たち学生は学ぶために与えられえたこの時間に多くの「知識」を身につけなければならないと強く感じました。

「深圳職業技術学院」では、積極的な留学生の受け入れによる国際交流の活発化を目指した取り組みや、幅広い分野に対応した学部紹介などを聞きました。

最新都市で優秀な人材育成をするのに最良の場所とされるこの地域にある大学だからこそ、国からの補助金も手厚く学生の意思を尊重した活動を行うことができるのだそうです。

また、「実用性・即効性のある人材育成」を教育理念としており世界に通用する人材を毎年多く輩出しています。グローバルな視点で幅広い分野を知り、得意分野を伸ばしていくことで自国だけでなく世界にも貢献することができるということ、良い環境が人を育てるのだということを知りました。

中国は、食事・環境・習慣が日本とは全く違ったため、すべてがとても新鮮で驚くことばかりでした。行ってみなければわからないこと、体験できないことがこんなにも沢山あるのだと痛切に感じました。

自身の成長、そして今後の目標の具体化、どちらも十分に達成することができました。

今回の経験は今後の人生において大きな糧となることでしょう。このような機会に巡り合うことができて本当に良かったです。

たくさんの生徒の皆さんとその保護者の方々、先生方、そして黒陵同窓会の皆様方の厚いご支援があったからこそ、今回の海外研修を実現できたのだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

ぜひ、今後もこの取り組みを続けていって欲しいと思います。

（第一電材）

（深圳職業技術学院）

心の線に触れた旅

教諭　藤田　收
（国語科）

この度は、引率教員として「HABATAKE! 黒陵」（深圳）に参加させていただきました。これも、ひとえに同窓会・ＰＴＡによるお力添えのおかげでございます。感謝申し上げます。

さて、今回の研修地・深圳という所は、あまり馴染(なじ)みのない場所だと思います。しかし、深圳は経済特区に指定された都市で、経済的に大発展している大都会です。地下鉄も走っており、人口は東京よりも多いそうです。

今回、生徒が参加した研修を掻(か)い摘(つ)まむと、前半は深圳に進出している日本企業で講話を聞き、その後に実習。後半は深圳の大学、および最先端のハイテク企業の見学でした。

参加している生徒の態度は真摯で熱心でした。話を聞く時はもちろんですが、どの講話の後にも常に質問を投げかけ、自分が納得するまで貪欲に知識を得ようとしてました。

実習の時も、目を輝かせながら体を動かしていました。実習が終わった後の生徒の顔は爽やかで満足げでした。

大学見学は深圳職業技術学院でしたが、大規模な上に、ハイテク設備の中で学生たちも生き生きとキャンパスライフを送っていまし。生徒も大学の何たるかを感じ取ったことと思います。

「ツァンワンフートン」は玩具と教育機器との融合を目指す会社。

「SNAILNEST　TECHNOLOGY」はヴァーチャルリアリティの発展・応用を目指す会社。

どちらの会社も柵(しがらみ)にとらわれずに、若い感性で社員が働いており、生気が溢(あ)れているのが伝わってきました。

今回の旅は、知命(ちめい)の私でも感銘を強く受けました。深圳で会った社長のバイタリティや、多くの人から受けた親切。きっと若い生徒はもっとよい影響を受けているはずです。またマスコミやネットでは得ることのできない「生」のインテリジェンス。「生」に触れるのは現地に行くしかないと生徒も強く実感できたはずです。とても素晴らしい企画でした。是非、次年度も続けて行ってもらいたいと思います。

（SNAIL NEST TECHNOLOGY）

（香港で飲茶）

HABATAKE!黒陵 海外派遣事業に参加し

教諭　箱　崎　満　美
（英語科）

黒北に赴任して 1 年が過ぎようとしていた日に、今回の海外派遣事業に参加することになった。正直、向こうに行く前は、中国に対して良いイメージがなく、あまり気がのらなかった。

黒北の前に、7 年間、私は大船渡市の学校に勤めていた。2011 年の東日本大震災も経験した。当時、大船渡市内のブロイラーの工場に、多くの中国人が研修生として働いていた。3 月 11 日、勤務していた学校が、避難所になり、その中国の方たちも避難してきた。同僚で、中国語を話す先生がいて、一生懸命、話をしていた姿を今でも覚えている。1 週間後、私は家族と電話で連絡をとるため、近くの合同庁舎に行った。ライフラインが寸断されて、携帯電話も通じず、そこは長蛇の列だった。電話で話せるのは、1 人 3 分までと決められていた。その時も、母国の家族と連絡をとっていた中国人がいた。遠く離れて暮らす家族と話すために、明らかに 3 分以上経っていた。これだけの大震災を異国の地で経験したのだから仕方ないという気持ちもあったが、他にも連絡を取りたがっている人はいるという苛立ちの気持ちもあった。そういうわけで、私は、中国人に対して、芯の強さはあるが、周りを顧みないところがあるというマイナスイメージを少なからず持っていた。

中国・深圳では、深圳テクノセンターを訪問した。深圳テクノセンターは、日本の中小企業の中国進出をサポートするために、１９９１年に設立された。私たちは、今回、電化製品に使われているケーブルを作っている第一電材株式会社、金属プレスを行っている有限会社ヒサダ、そして金属などに刻印を行っている東京彫刻工業株式会社で見学・実習を行った。

工場見学や生徒達の実習を通し、私の中国人に対するマイナスイメージはプラスへと変わった。まず、中国人は、とても手先が器用で、忍耐力があるということである。ケーブル 1 本、金属の組み立てなど絶対にミスは許されない。かなり、細かい作業を、長時間、行う姿には本当に感心した。2 つ目に、強さの裏に、優しさや思いやりにあふれていることを感じた。自分の仕事で忙しい中、常に笑顔で、生徒達に手取り足取り作業を教えていた。言葉は通じなくても、筆談で漢字を使いながら、必死でコミュニケーションをとって、生徒に接していた。日本では、数年前から「おもてなし」という言葉をよく聞く。中国人は、人をもてなす暖かい心が元々あるのではないかと感じた。3 つ目に、「謙虚さ」である。訪問した企業では、何人か日本語を話す中国人がいた。ヒサダさんで会社を案内して下さった女性の方は、日本に住んでいたことがあり、本当に流暢に日本語を話していた。「日本語、お上手ですね」と言うと、「いえいえ、まだまだ勉強しなければなりません。」と言っていた。何年経っても、たとえ、どんなに話せるようになっても、奢りの気持ちを持たずに、勉強し続ける姿を決して忘れてはいけないと感じた。

中国というと PM2.5、壊れやすい電化製品など、私は、ステレオタイプ的な悪いイメージしかなかった。しかし、実際はどうなのか。それは、自分の目で見て、耳で聞いて、感じることが大切だと改めて考えさせられた。そして、日本で、中国人に出会った時に、何か出来ることがあったら、言葉がわからなくても、手をさしのべてあげることが出来たらと思う。

最後に、今回、海外派遣に参加した黒陵生へ、一言。

1 週間の研修で、皆さんの懸命に実習に

取り組む姿、そして、中国語のフレーズをどんどん覚えていく姿には、本当に感動し、驚きだった。研修中の皆さんの目は、本当に輝いていた。香港の１００万ドルの夜景もきれいだったが、それ以上に、皆さんの目はキラキラして美しかった。これからも、そのきれいな瞳で、物事の真髄を見つめ、多くの事を学んでほしい。

今回の研修は、工業系の企業の見学・実習で、理系の人は、学ぶことが沢山あったと思う。しかし、文系の人も、考えさせられる事があったのではないかと思う。日本では、中国について、悪いニュースだけが伝えられている傾向にある。でも、実際は違うということを、今回、目の当たりにした。よって、文系の皆さんが出来ることは、自分の目で物事を確かめ、それを自分の言葉で正確に伝えることだと思う。そのために、言語や経済、文化を学んでほしいと思う。私も、まだまだ勉強不足であることを痛感した。これから、もっと言語や異文化について勉強し、生徒と共に成長できたらと思う。

今回、このような貴重な機会を与えて下さった校長先生、副校長先生、そして、私が不在の間、学校で陰ながら支えて下さった先生方に深く感謝したい。また、同窓会、PTA などで HABATAKE 基金に寄付をして下さった方に深く感謝したい。

本当にありがとうございました。

寄付者名簿（敬称略）　　平成 29 年 4 月 10 日現在

同窓会総会（5月1日）伊藤彬　高橋敏　小田島正明　菅原善致　菊池隆　小笠原味佐枝
佐藤知子　八重樫守民　小田島秀一　八重樫博之　佐藤隆夫　菅野俊基　片方康晴
渡邊嘉二郎　南川昌光　梅村俊男　千葉浩克　福嶋朗　佐々木亨　斎藤盛久　大山拡詞
渡邊幸貫　近藤栄伸　遠藤幸徳　桑原啓　斎藤忠夫　菅野光雄　佐藤タイ　高橋司男
鈴木康夫　安藤利勝　八重樫輝男　平野允苗　高橋駿介　千葉涼介　片方威　佐藤奈美
山中満子　板宮成悦　髙橋忠徳　佐藤知子　江釣子卓也　阿部賢吉　及川泰一
平野大介　菊地雅子　黄川田隆洋　上原耕太郎　佐藤文也
同窓会盛岡支部（5月27日）金田一叶　川村登　菊池繁　菊池惇　中舘浩一　千田實
齊藤盛久　小原隆根　髙橋喜三郎　野崎好治　細川吉郎　立花勇蔵　菅野督己　高橋繁
鬼柳行志　佐々木杜子　千田三義　佐々木和夫　佐藤尚　堀井知子　矢吹悦延
双木昌子　小原博子　高橋嘉途　小坂朋夏　菊池章　石橋研一　佐藤浩治　三田哲雄
小笠原勝子　齋藤静夫　高橋捷友　菅崎正明　岩田幸子　深澤竜三　及川正彦
高橋民男　平野清八　高橋耕　四井謙吉　吉田吉明　小田島清博　三上藤雄　小山雄士
谷地畝範昭　小西和子　根子忠美　高橋初男　鈴木洋一　高橋司　及川政己　菊池英雄
高橋栄一　野村俊之　菅原正宏　名須川孝治
同窓会東京支部（7月17日）岡與三郎　小川京子　小田島アツ　内田禮一　高橋晃
熊谷健　斎藤竜太　小原正彦　菊池克雄　小田島司郎　深澤豪彦　阿部宇善　菊池威
小原磯則　中野盛　渡辺嘉二郎　阿部栄子　赤平昌文　阿部達彦　高橋富子　深澤彰彦
村田珠子　千葉哲　関口しづか　南川昌光　八重樫悟　小原寛　小野寺るり子　泉館敦
加藤ゆりいか　菊池公司　後藤明彦
同窓会宮城支部（7月2日）千田典男　高橋孝男　伊藤彰八　依田謙吉　小原左武生
菊池康友　獄間澤忠良　滝澤弥寿子　佐々木精一　高橋忠孝　千葉浩克　桑島和久
菅原慎一　梶川光夫　佐々木哲郎　福嶋朗　八木美紀子　長田公子　中嶋富佐子
宮田和彦
同窓会関西支部（2月4日）田付舒義　桐原光　鎌田龍児　伊藤寿彦　尾張秀男　伊藤衛
片方伸也　佐々木亨　平野良夫　高橋昭夫　佐　1武ケイ子　高橋豊文　三原悦子
佐藤哲也　八重樫善幸　齋藤駿介
同窓会花巻支部（5月15日））阿部寿美子　吉田優子　小田島峰雄　齊藤盛久　熊谷勇夫
佐藤タイ　古川重勝　佐々木恵子
同窓会水沢支部（5月12日）佐藤健二　清原悦郎　瀬川巌　村上昌司　阿部栄夫
佐々木壽雄　佐藤久爾子　佐藤ケイ子　高橋誠　鈴木由紀子　菅原和政　高橋忠徳
渡辺幸貫　昆憲治　近藤栄伸　菊池敏昭　荒川佳生　菅野雄孝　高橋十一　田鎖洋子
芳賀一雅
同窓会西和賀支部（11月16日）小田島三夫　真壁信男　小田島莞子　田村米雄
高橋セツ　古沢邦廣　菅原良　高橋定雄　佐々木勉　高橋明　高橋義和　高橋純一
高橋一夫　畠山幸雄　佐々木浩輔　深澤千里　高橋光世　高橋広一　高橋敏樹
廣田里美　中野真理　高橋寛
同窓会相去支部（10月20日）新田康夫　金田務　桑原啓　高橋咲子　及川浩子　阿部賢吉
金田八重子　阿部俊兄　鈴木久男　佐藤健二　阿部卓司　佐藤郁夫　高橋壮　三浦漠
佐藤健　千田智志　佐々木征子　平盛雄　佐藤瑞夫　石川伸作　戸澤勝　高橋久美子
阿部修自　山本憲治　宮本育生　菊池一二　高橋千寿子
同窓会北上市役所分会一同（7月20日）　45回生有志　　PTA一同
（個人・企業・団体様）　（株）岩手県南青果市場　（株）髙橋設計　（資）カネハラ電気
（有）丸昭　旭ボーリング株式会社　安部医院　岩手建設工業株式会社　岩手雪運株式会社
小田島建設株式会社　株式会社アジテック　株式会社岩手環境事業センター
株式会社小田島組　株式会社鬼柳　株式会社小原建設　株式会社佐藤組
株式会社北清物産　株式会社ヤエガシ　株式会社高嵩　北上開発ビル管理（株）
木村格章　北上自動車学校　北上プロパン　くさのイン　斉藤整形外科

司法書士石川誠司　司法書士菊池隆　田郷医院田郷秀昭　千田工業株式会社
土地家屋調査士小澤克之　土地家屋調査士権頭拓也　南部ホテル　マルサ
八重樫タクシー　有限会社ぐんぎん　有限会社ヤエトシ　有限会社吉辰タイル
吉田コンクリート株式会社　吉田社会保険労務士事務所　江釣子ショッピングセンター
Brooks Ruriko　芦口大　有住忠 東英夫　阿部悟　阿部早苗　阿部龍也　阿部直也
有馬勝則　安藤利勝　飯盛孝志　池田了二　石川明広　泉川澄男　板宮成悦　市川園子
伊藤彬　伊藤彰八　伊藤眞司　伊藤甚八　伊藤貴博　伊藤宙　伊藤傳左エ門　伊藤雄康
伊藤陽子　稲森雅夫　井畑朝子　上原茂子　牛崎悦子　梅木秀典　梅原孝　江釣子卓也
及川恵里　及川清克　及川政己　及川宋享　及川拓也　及川達彦　及川達也　及川幸雄
及川祐美子　及川量平　及川礼子　大島尚子　大友八千代　小笠原匡　押切秀一
小田島清博　小田島国郎　小田島秀一　小田島誠一　小田島隆　小田島晴教
小田島政行　小田島裕輔　小原磯則　小原欣哉　小原勝利　小原信　小原誠市
小原拓也　小原朋子　小原寛　小原正彦　小原隆蔵　小山隆　尾張秀男　柿澤瑞生
片方威　片方正通　加藤正喜　加留部政子　金濱淳　金谷秀司　金矢灯子　金谷時子
金矢笑　金田務　金原アヤ子　鎌田龍児　河合稔　河口隆　川邊瑞穂　川邊悠香
菅野聡子　菅野文也　菅野光雄　菊池勇　菊池克雄　菊池慶子　菊池繁　菊池進
菊池征子　菊池隆　菊地正　菊池ちとせ　菊池恒男　菊地秀雄　菊池康子　菊地由花
金田一叶　工藤健次　工藤弘子　熊谷健　郡司光之助　郡司泰男　小瀬川泰志
小田島正明　児玉功　後藤重　後藤正夫　小松江利子　金野晶子　今野國夫　今野光夫
齋藤清子　斎藤忠夫　斎藤次彦　齋藤直子　齊藤東久　斎藤実　齊藤盛久　斎藤暘
酒井康雄　坂本由喜子　佐久間修　佐々木一伸　佐々木惠子　佐々木壽雄　佐々木隆
佐々木憲信　佐々木真喜子　佐々木正幸　佐藤和男　佐藤和美　佐藤恵太　佐藤憲司
佐藤譲治　佐藤タイ　佐藤隆夫　佐藤武彦　佐藤ノリ子　佐藤守和　沢田育生　澤藤耕平
白川英里子　菅沼睦子　菅原俊基　菅原千江子　菅原星子　菅原正義　菅原宗彦
菅原洋一　菅原敬夫/久美子/智　鈴木宰　鈴木京子　鈴木信也　鈴木正朝　鈴木洋一
須永明美　瀬川陽子　関口しずか　瀬戸一也　瀬戸典子　髙田由佳　高橋（和田）育郎
髙橋和彦　高橋健悦　高橋賢治　髙橋研也　髙橋敏　髙橋祥元　高橋正助　髙橋孝男
髙橋卓也　高橋忠雄　髙橋義柄　髙橋忠徳　髙橋悌二　高橋俊紀　高橋智宏　髙橋登
髙橋憲雄　髙橋規子　髙橋八千男　髙橋久　髙橋洋明　髙橋浩子　髙橋藤生　髙橋文次
髙橋昌男　髙橋正徳　高橋満　高橋稔　髙橋義和　高橋善孝　髙橋義信　髙橋隆蔵
高橋玲子　髙橋沆子　瀧沢美子　田口修二　竹田登代子　武田久治　武田美奈子
竹村あゆみ　多田司　橘牧子（章）　立花勇藏　田中はるみ　千田伸生　千田正俊
千田雄康　千田隆司　千葉紗也香　千葉隆　千葉司　千葉浩克　千葉嘉樹　寺田喜久子
照井健　戸松ノリ子　冨手研司　巴正市　中川久美子　中込昭弘　中込春雄　中島ヒロ子
中嶋富佐子　中林健　中村好雄　新田皓彦　新田寿成　沼田則正　沼田陽子　根本俊介
野久雄　野呂昭子　灰原宇多子　長谷川玄也　畠山幸雄　晴山洋子　平田充隆　平野正
深澤寿比古　深澤千里　福盛田衛　藤澤廣己　藤野歩　藤原榮　藤原康史　藤原義延
戸来章　星衛　本間英樹　前川裕　前田征子　正木信悦　三浦由和　三田明雄　湊啓子
南川昌光　宮川ミツ　三宅悦子　森谷幸　八重樫諭　八重樫成子　八重樫孝志
八重樫輝男　八重樫則実　八重樫守民　八重樫裕司　八木美紀子　矢島由佳　柳林春治
山崎一文　山田岳　山田幸輝　山本令子　吉田正志　吉田吉明　吉田芳男　芳野宏一
依田謙吉　渡邊和泰　渡辺軍三　渡邊直子　渡辺るり子　和田盛雄　和野内清彦

平成28年度　HABATAKE!黒陵決算書

収入

項目	28年度決算			備　　考
黒陵同窓会	774,230			総会、盛岡、東京、宮城、関西、花巻、水沢、西和賀、相去、北上市役所分会
PTA	244,000			
振込による寄付	1,584,000			同窓生・市内企業
生徒負担金	500,000			派遣生徒10人
合計	3,102,230			

支出

項目	28年度決算			備考
旅行代金	2,090,840			派遣生徒10人
関係者謝金	176,931			関満博教授・ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
雑費	7,635			黒陵手ぬぐい11枚・ﾃﾞｼﾞｶﾒﾌﾟﾘﾝﾄ
事務経費	56,732			払込用紙印刷・払込手数料
合計	2,332,138			

収入	3,102,230
支出	2,332,138
合計	770,092

平成29年4月20日　以上の通り決算報告いたします。

会計担当　　藤田　收

平成29年4月25日　適正と認めます。

監査委員　　千葉　治